

様式

令和2年度 山口県立山口農業高等学校 学校評価書 校長(別府 静二)

<p>1 学校教育目標</p> <p>(1) 主体的に学ぶ意欲を身に付けさせ、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するために必要な力の育成(「学ぶ力」の育成) (2) 規範意識や倫理観、コミュニケーション能力とともに、たくましく生きるために必要な健康や体力の育成(「生き抜く力」の育成) (3) 自己や他者を思いやり、共感したり感動したりする心や態度及び社会に貢献しようとする態度、感謝する心や態度の育成(「温かい心」の育成) (4) 地域の文化や産業を理解し、夢や目標を持ち、学んだことを生かして地域社会の担い手として貢献しようとする意欲や態度、能力の育成(「地域を担う力」の育成) (5) 地域や関係機関との連携を深め、時代の変化に対応した教育の推進 (6) 教職員間の情報共有、連携による学校の組織力強化</p>																																														
<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>① 地域とともにある学校づくりの推進をめざし、各科において、幼稚園・小学校・特別支援学校・専門学校・地元企業等と連携し、地域の要望等に応えることで地域貢献を十分に果たしている。これらを継続するとともに、学校改善につながるような地域貢献・学校支援の在り方も模索する。 ② 保護者との連携強化をめざし学校行事の参加数増に取り組んだが、前年度とほぼ同数の参加であった。保護者の来校増加に向け、あらゆる媒体を通じて情報を積極的に提供していくとともに、魅力ある取組・出席せざるを得ない取組等を企画・運営していく。 ③ 授業実践力の向上にむけ、研究授業・授業見学をさらに推進するとともに、プロジェクト学習推進のための授業力向上をめざした教員研修を実施する。 ④ いじめ防止対策については、学校いじめ防止基本方針に則り、SC等と連携しながら未然防止・早期発見に努めている。その一方で、マナー・モラルの向上、特にSNSの利用については課題が残る。今後も、全教員の共通理解のもと、実質的な手立てを講じて継続して指導していく。 ⑤ 早期に進路目標を明確にし前向きに取り組む姿勢を育むため、系統的にキャリア教育を進めている。基礎学力の定着には課題が残るので、課外・朝学等の手立てをうち、個々に応じた基礎学力指導体制を確立していく。 ⑥ 様々な機会を捉えての受診勧告・健康指導により、再受診者数の増加がみられた。再受診率の向上をめざし、更なる手立てを講じる。また、教職員が率先して校内美化に取り組む体制を作る。 ⑦ 専門高校として資格取得率向上をめざし、今年度から「課題研究」において、資格取得をめざした取組を全科共通で行ったが、十分な成果が得られず課題が残った。定期的に生徒へ情報を伝え意欲喚起に努めるとともに、指導方法を工夫改善し、取得率の向上を図る。また、プロジェクト学習の充実により、生徒の課題解決力の向上を図るとともに、ASIAGAP認証取得をめざす過程を通して、生徒の主体性を育てていく。 ⑧ 各科の特色を生かした授業、プロジェクト学習及び地域連携を通して、基礎的・汎用的能力と専門性を育成する。 ⑨ 日常的に各学年団での情報共有を図るとともに、他の学年や分掌等との連携も行い、風通しのよい職場づくりを行う。 ⑩ 施設・設備について、安全性の向上の観点から優先順位を付け、改修・修理を行うことができた。引き続き老朽化施設の改善・整備に取り組むとともに、受付対応の更なる改善に努める。 ⑪ 行事等の見直しは、PDCAサイクルに基づき、絶えず改善を行っている。時間外勤務については、一朝一夕には削減が進まないが、引き続き教員の意識改革と業務改善を行う。</p>																																														
<p>3 本年度重点目標</p> <p>「協働によって為すことによつて学び、主体的に自己実現ができる生徒の育成」</p> <p>(1) プロジェクト学習の充実 (2) 将来の社会人として必要な生活習慣・マナー、コミュニケーション能力の育成 (3) 主体的に学ぶ意欲や態度の育成と基礎学力(学び直し)指導の充実 (4) 学科の特色を生かした進路選択の推進と進学・公務員希望者の指導の充実 (5) 資格取得の推進 (6) 教職員間の意思疎通・協力体制の強化</p> <p>※チャレンジ目標(生徒の努力目標) 「一歩前進 ～踏み出そう 未来へ続くこの道を～」 ①学力向上をめざそう ②失敗を恐れずチャレンジしよう ③挨拶をきちんとしよう</p>																																														
<p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価領域</th> <th>重点目標</th> <th>具体的方策(教育活動)</th> <th>評価基準</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校運営</td> <td>・地域とともにある学校づくりの推進</td> <td>・コミュニティ・スクールとして、地域と一体となった魅力ある教育活動を行い、地域貢献を果たす。</td> <td>・地域や関係機関にとって魅力ある地域貢献を 4:十分行うことができた。 3:ほぼ行うことができた。 2:少し行うことができた。 1:まったく行うことができなかった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・教職員の意思疎通・協力体制の強化による組織力の向上</td> <td>・分掌会議、各科会議、学年会議等必要に応じて開催し、意思疎通を図る。 ・縦・横のつながりを意識し、報告・連絡・相談を徹底することで、協力体制を構築する。</td> <td>・各分掌・農場・各科・学年等において共通理解を 4:十分図ることができた。 3:ほぼ図ることができた。 2:少し図ることができた。 1:まったく図ることができなかった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総務</td> <td>・学校行事の実施内容などの見直し・スリム化</td> <td>・入学式、PTA総会、1日体験入学、卒業式、仮入学について、アンケート、総務部の会議、時間の短縮を意識した打ち合わせ会の開催などから、計画通りに実施する。</td> <td>・5つの行事について、 4:すべての行事が、予定時間内に終了できた。 3:4つの行事が、予定時間内に終了できた。 2:3つの行事が、予定時間内に終了できた。 1:予定時間内に終了できない行事が、3つ以上あった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・PTA行事の充実</td> <td>・農業祭のふれあいバザー・開放講座の参加者にアンケートを実施し、参加者の評価を行事の改善に生かす。</td> <td>・2つの行事の参加者のアンケート結果において有意義と答えた割合が、 4:参加者の80%以上になった。 3:参加者の60%以上になった。 2:参加者の40%以上になった。 1:参加者の40%未満だった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教務</td> <td>・授業実践力の向上</td> <td>・授業公開や研究授業、授業見学などを通して、生徒にわかりやすい授業が展開できるように授業改善に取り組む。そのために、学期に1回授業見学週間を設定し、授業見学を促進する。</td> <td>・授業公開や研究授業を通して、 4:全員の教員が他の教員の授業を見学した。 3:7割の教員が他の教員の授業を見学した。 2:5割の教員が他の教員の授業を見学した。 1:他の教員の授業を見学したものが5割未満であった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・図書館利用の促進</td> <td>・委員会活動の活性化を図り、図書館だよりや生徒の希望図書を充実させ、図書館利用者のさらなる拡大に努める。</td> <td>・図書館の利用者が、 4:のべ1800人以上になった。 3:のべ1700人以上になった。 2:のべ1600人以上になった。 1:のべ1500人以上になった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・学校HPの充実</td> <td>・学校行事や授業での取組等の紹介を随時行い、更新回数を増やす。 ・コンテンツを工夫・改善し、見やすく魅力のあるHP作りを行う。</td> <td>・HP更新を、 4:50回以上行った。 3:40回以上行った。 2:30回以上行った。 1:行った回数が30回未満であった。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	学校運営	・地域とともにある学校づくりの推進	・コミュニティ・スクールとして、地域と一体となった魅力ある教育活動を行い、地域貢献を果たす。	・地域や関係機関にとって魅力ある地域貢献を 4:十分行うことができた。 3:ほぼ行うことができた。 2:少し行うことができた。 1:まったく行うことができなかった。		・教職員の意思疎通・協力体制の強化による組織力の向上	・分掌会議、各科会議、学年会議等必要に応じて開催し、意思疎通を図る。 ・縦・横のつながりを意識し、報告・連絡・相談を徹底することで、協力体制を構築する。	・各分掌・農場・各科・学年等において共通理解を 4:十分図ることができた。 3:ほぼ図ることができた。 2:少し図ることができた。 1:まったく図ることができなかった。		総務	・学校行事の実施内容などの見直し・スリム化	・入学式、PTA総会、1日体験入学、卒業式、仮入学について、アンケート、総務部の会議、時間の短縮を意識した打ち合わせ会の開催などから、計画通りに実施する。	・5つの行事について、 4:すべての行事が、予定時間内に終了できた。 3:4つの行事が、予定時間内に終了できた。 2:3つの行事が、予定時間内に終了できた。 1:予定時間内に終了できない行事が、3つ以上あった。		・PTA行事の充実	・農業祭のふれあいバザー・開放講座の参加者にアンケートを実施し、参加者の評価を行事の改善に生かす。	・2つの行事の参加者のアンケート結果において有意義と答えた割合が、 4:参加者の80%以上になった。 3:参加者の60%以上になった。 2:参加者の40%以上になった。 1:参加者の40%未満だった。		教務	・授業実践力の向上	・授業公開や研究授業、授業見学などを通して、生徒にわかりやすい授業が展開できるように授業改善に取り組む。そのために、学期に1回授業見学週間を設定し、授業見学を促進する。	・授業公開や研究授業を通して、 4:全員の教員が他の教員の授業を見学した。 3:7割の教員が他の教員の授業を見学した。 2:5割の教員が他の教員の授業を見学した。 1:他の教員の授業を見学したものが5割未満であった。		・図書館利用の促進	・委員会活動の活性化を図り、図書館だよりや生徒の希望図書を充実させ、図書館利用者のさらなる拡大に努める。	・図書館の利用者が、 4:のべ1800人以上になった。 3:のべ1700人以上になった。 2:のべ1600人以上になった。 1:のべ1500人以上になった。		・学校HPの充実	・学校行事や授業での取組等の紹介を随時行い、更新回数を増やす。 ・コンテンツを工夫・改善し、見やすく魅力のあるHP作りを行う。	・HP更新を、 4:50回以上行った。 3:40回以上行った。 2:30回以上行った。 1:行った回数が30回未満であった。		<p>5 学校関係者評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校関係者からの意見・要望等</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		学校関係者からの意見・要望等	評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度																																										
学校運営	・地域とともにある学校づくりの推進	・コミュニティ・スクールとして、地域と一体となった魅力ある教育活動を行い、地域貢献を果たす。	・地域や関係機関にとって魅力ある地域貢献を 4:十分行うことができた。 3:ほぼ行うことができた。 2:少し行うことができた。 1:まったく行うことができなかった。																																											
	・教職員の意思疎通・協力体制の強化による組織力の向上	・分掌会議、各科会議、学年会議等必要に応じて開催し、意思疎通を図る。 ・縦・横のつながりを意識し、報告・連絡・相談を徹底することで、協力体制を構築する。	・各分掌・農場・各科・学年等において共通理解を 4:十分図ることができた。 3:ほぼ図ることができた。 2:少し図ることができた。 1:まったく図ることができなかった。																																											
総務	・学校行事の実施内容などの見直し・スリム化	・入学式、PTA総会、1日体験入学、卒業式、仮入学について、アンケート、総務部の会議、時間の短縮を意識した打ち合わせ会の開催などから、計画通りに実施する。	・5つの行事について、 4:すべての行事が、予定時間内に終了できた。 3:4つの行事が、予定時間内に終了できた。 2:3つの行事が、予定時間内に終了できた。 1:予定時間内に終了できない行事が、3つ以上あった。																																											
	・PTA行事の充実	・農業祭のふれあいバザー・開放講座の参加者にアンケートを実施し、参加者の評価を行事の改善に生かす。	・2つの行事の参加者のアンケート結果において有意義と答えた割合が、 4:参加者の80%以上になった。 3:参加者の60%以上になった。 2:参加者の40%以上になった。 1:参加者の40%未満だった。																																											
教務	・授業実践力の向上	・授業公開や研究授業、授業見学などを通して、生徒にわかりやすい授業が展開できるように授業改善に取り組む。そのために、学期に1回授業見学週間を設定し、授業見学を促進する。	・授業公開や研究授業を通して、 4:全員の教員が他の教員の授業を見学した。 3:7割の教員が他の教員の授業を見学した。 2:5割の教員が他の教員の授業を見学した。 1:他の教員の授業を見学したものが5割未満であった。																																											
	・図書館利用の促進	・委員会活動の活性化を図り、図書館だよりや生徒の希望図書を充実させ、図書館利用者のさらなる拡大に努める。	・図書館の利用者が、 4:のべ1800人以上になった。 3:のべ1700人以上になった。 2:のべ1600人以上になった。 1:のべ1500人以上になった。																																											
	・学校HPの充実	・学校行事や授業での取組等の紹介を随時行い、更新回数を増やす。 ・コンテンツを工夫・改善し、見やすく魅力のあるHP作りを行う。	・HP更新を、 4:50回以上行った。 3:40回以上行った。 2:30回以上行った。 1:行った回数が30回未満であった。																																											
学校関係者からの意見・要望等	評価																																													

生徒	・社会人として必要な生活習慣やマナー・モラルの向上	・全職員で登校指導を行い、身だしなみの確認や挨拶の徹底を図る。 ・携帯電話・スマートフォンの利用については、規則遵守やマナーの向上に努める。 ・ボランティア活動へ積極的な参加を促す。 ・基本的な生活習慣の確立を目指す。	・校外のボランティア活動に参加した生徒が、 4: のべ200人以上になった。 3: のべ150人以上になった。 2: のべ100人以上になった。 1: のべ100人未満しか参加しなかった。			
	・いじめ問題に対する取り組みの徹底	・いじめ基本方針に基づく対応を周知徹底する。 ・QUやハイパーQU等のアンケート調査を7回程度行い、いじめ・いじりの未然防止や早期発見に努める。 ・教職員はもちろんのこと、スクールカウンセラーや関係機関との情報共有を図りながら、問題に対応する。	・ハイパーQUや生活アンケート調査を 4: 7回以上行い、未然防止や早期発見に取り組んだ。 3: 5回以上行い、未然防止や早期発見に取り組んだ。 2: 3回以上行い、未然防止や早期発見に取り組んだ。 1: 全く行うことができなかった。			
進路	・キャリア教育、進路指導の充実	・早期からの体系的なキャリア教育を進め、進路目標を明確にし前向きに取り組む姿勢を育む。 ・学年、科、教科で、進路情報(各種テスト・検査の結果、進路希望、進路決定結果等)の提供と活用を検討を行う。 ・進路指導室の整備を図り、教員、生徒・保護者の利用を促進する。 ・生徒・保護者への進路情報の提供を図る。	・進路指導室の整備を図り、生徒・保護者への情報提供や、その改善・実践が、 4: 8件以上できた。 3: 6件以上できた。 2: 4件以上できた。 1: 4件未満であった。			
	・基礎学力(学び直し)の指導の充実	・学校全体で基礎学力の向上のため、PDCAサイクルの構築に向け取り組む。 ・基礎力診断テストの結果を検討することにより、「知識・能力」や「学習習慣・進路意識」を把握し、指導に役立てる。 ・基礎力診断テストの実施にあたり、事前学習の指導の充実を図り、事後学習や学び直し指導の検討・模索をする。	・事前学習(OneWeekなど)や、事後指導の取組に、 4: 75%の生徒が取り組んだ。 3: 60%以上の生徒が取り組んだ。 2: 50%以上の生徒が取り組んだ。 1: 取り組む生徒が50%未満であった。			
保体	・環境整備の推進・充実	・環境安全点検・衛生点検を行い、安心安全な教育環境作りに取り組む。 ・掃除の際に、手すりやドアノブの消毒を心がけ、感染症対策を行う。	・点検結果を基にした環境整備の改善が 4: 50%以上できた。 3: 30%以上できた。 2: 30%未満であった。 1: 全くできなかった。			
	・健康に対する取り組みの推進	・受診勧告プリントやほけん日より、全校集会、保護者面談、PTA総会等の機会を利用し、生徒・保護者へ健康診断結果の把握、受診率の向上を図る。 ・未受診者には個別指導を行う。 ・感染症に対する知識を身に付けさせる。	・事後指導により受診や治療を行った生徒が 4: 70%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 30%未満であった。			
農場	・地域や関係機関との連携を深め、時代の変化に対応した教育の推進	・プロジェクト学習をととした地域や関係機関との連携を図る。	・地域や関係機関との連携を年間1回以上 4: 全ての生徒が関係した。 3: 80%以上の生徒が関係した。 2: 60%以上の生徒が関係した。 1: 関係した生徒が60%未満であった。			
	・専門教育の充実	・資格指導計画を作成し、全専門教員で指導を行う。 ・資格取得状況などを示し、生徒の意欲を喚起する。	・年間1種類以上の資格を 4: 全ての生徒が取得した。 3: 80%以上の生徒が取得した。 2: 60%以上の生徒が取得した。 1: 取得した生徒が60%未満であった。			
	・教員の専門性向上	・教員研修や研究事業等積極的に参加し、教員の資質、専門性の向上を図る。	・教員研修または研究事業に年間1回以上 4: 全ての教員が参加した。 3: 80%以上の教員が参加した。 2: 60%以上の教員が参加した。 1: 参加した教員が60%未満であった。			
生物生産	・学科の特色を生かした進路選択の推進	・プロジェクト学習の推進により、農業に関する知識・技術・考え方を身につける。外部機関との連携により、講習や見学を行い、農業経営を学ぶとともに生徒の興味関心を高める。	・アンケートを行い、「将来、農業関連の仕事をしたい」という生徒の割合が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 30%以上であった。 1: 30%未満であった。			
	・資格取得の推進	・科の特色を生かした進路選択ができるように、積極的に資格取得をしようとする態度を育てる。	・生徒一人あたりの平均取得数が 4: 2.0以上であった。 3: 1.5以上であった。 2: 1.0以上であった。 1: 1.0未満であった。			
食品工学	・将来の社会人として必要なコミュニケーション能力の育成	・専門科目の各授業で地域連携やプロジェクト学習に積極的に取り組み、多くの人と関わることでコミュニケーション能力を高め、将来の地域産業を担う人材を育てる。	・アンケートを行い、「コミュニケーション能力を高めることができた」と答える生徒が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。			
	・資格取得の推進	・科の特色を生かした進路選択ができるように、積極的に資格取得をしようとする態度を育てる。	・2、3年生における生徒一人あたりの平均取得数が 4: 2.0以上であった。 3: 1.5以上であった。 2: 1.0以上であった。 1: 1.0未満であった。			
生活科学	・地域連携による「地域を担う力」の育成	・地域や関係機関との連携を深め、教育資源を活用した授業を実施し、地域社会の担い手として貢献できるための専門的な知識や技術を身につくようにする。	・外部講師による授業や校外実習により学習への興味関心が高まり、専門的な技術や知識の習得に役立ったと答えた生徒が 4: 科内の80%以上であった。 3: 科内の60%以上であった。 2: 科内の40%以上であった。 1: 科内の40%未満であった。			
	・資格取得の推進	・科の特色を生かした進路選択ができるように、積極的に資格取得をしようとする態度を育てる。	・1つ以上の資格取得に挑戦した(受験した)生徒が 4: 90%以上であった。 3: 80%以上であった。 2: 70%以上であった。 1: 70%未満であった。			

環境科学	・地域連携による「地域を担う力」の育成	・地域や関係機関との連携を深め、教育資源を活用した授業を実施し、地域社会の担い手として貢献できるための専門的な知識や技術を身につくようにする。	・外部講師による授業や校外実習により学習への興味関心が高まり、専門的な技術や知識の習得に役立つと答えた生徒が 4: 科内の80%以上であった。 3: 科内の60%以上であった。 2: 科内の40%以上であった。 1: 科内の40%未満であった。			
	・資格取得の推進	・科の特色を生かした進路選択ができるように、積極的に資格取得をしようとする態度を育てる。	・1つ以上の資格取得に挑戦した(受験した)生徒が 4: 90%以上であった。 3: 80%以上であった。 2: 70%以上であった。 1: 70%未満であった。			
3学年	社会人となるための資質の養成	・定期的に面談を行い、自らのあり方を考えさせる。 ・進路意識の啓発を行い、生きる力を育てる指導を行う。 ・基本的な生活マナーを確立させ、欠席・遅刻をなくす指導を行う。	具体的な取組(面談、啓発等)を行うことによって、進路実現した生徒が 4: 80%以上であった。 3: 70%以上であった。 2: 50%以上であった。 1: 50%未満であった。			
2学年	言動に責任を持ち、将来に向けた努力をする生徒の育成	・進路意識の向上、資格取得の指導を行う。 ・規律正しい学校生活の確立(時間厳守、提出物期限の遵守)のための指導を行う。 ・礼儀(マナー・モラルの確立)の指導を行う。	具体的な取組(時間厳守、提出物)が 4: 80%以上できた。 3: 60%以上できた。 2: 30%以上できた。 1: 30%未満であった。			
1学年	生徒一人ひとりの目標の確立と規律正しく充実した学校生活の確立	・キャリアパスポートの活用や生徒面談を通して目標を明確にさせ、進路意識の向上や学校生活の充実につなげる。 ・整理整頓を心掛けた環境作りや時間厳守、提出期限厳守の習慣付けなど、授業を大切にすることを意識を育てる。 ・整った身だしなみ、挨拶、場に応じた言動を身につけるように指導する。	具体的な取組(キャリアパスポート活用、面談、時間厳守、提出物等)が 4: 80%以上できた。 3: 60%以上できた。 2: 30%以上できた。 1: 30%未満であった。			
事務	校内ネットワークの高速化等に向けた教育ICT環境の整備	・全県立学校で一体的に設備される校内通信ネットワーク化などを活用して、ネットワーク化が劣る本校の環境の充実化に努める。	本校の求めるネットワークの環境整備が 4: 十分にできた。 3: ほぼできた。 2: 少し行うことができた。 1: 全くできなかった。			
	来年度完全分校化の西市分校と本校の事務手続きの調整と具現化の確立	・西市分校が来年度から完全分校となるため、本校と分校の事務がそれぞれ円滑に、かつ、効率的に遂行できるための手続きを調整し、具現化を図る。	次年度に向けた手続きの具現化が 4: 十分にできた。 3: ほぼできた。 2: 少し行うことができた。 1: 全くできなかった。			
業務改善	・日常的な業務の見直し	・PDCAサイクルに基づき、行事等についてアンケートを実施し、次年度に向け効率・効果的な業務ができるよう改善を図る。	次年度に向けた業務改善の検討を 4: 十分行うことができた。 3: ほぼ行うことができた。 2: 少し行うことができた。 1: 全く行うことができなかった。			
	・勤務状況の改善	・教職員の心身の健康のため、業務の効率化を進めるとともに、健康管理への十分な配慮も行う。	時間外勤務の短縮について、昨年度と比べると 4: 10%以上達成できた。 3: 5%以上達成できた。 2: ほとんど変化がなかった。 1: 達成できず、逆に増加した。			